



暮らしを支える「こくさい物流のしごと」

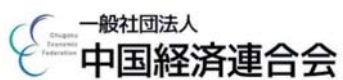
小学生版



<https://www.pa.cgr.mlit.go.jp/kokusai/>

中国地方国際物流戦略チーム 🔍 で検索！

《発行：中国地方国際物流戦略チーム》



中国地方国際物流戦略チーム

日本における外国ぼうえきの貨物量

日本が1年間に外国と貿易する貨物の量は約9億トン。このうち、99.6%が船で運ばれています。まわりを海で囲まれた日本では、毎日の暮らしに欠かせないものを世界中から船で運んできています。

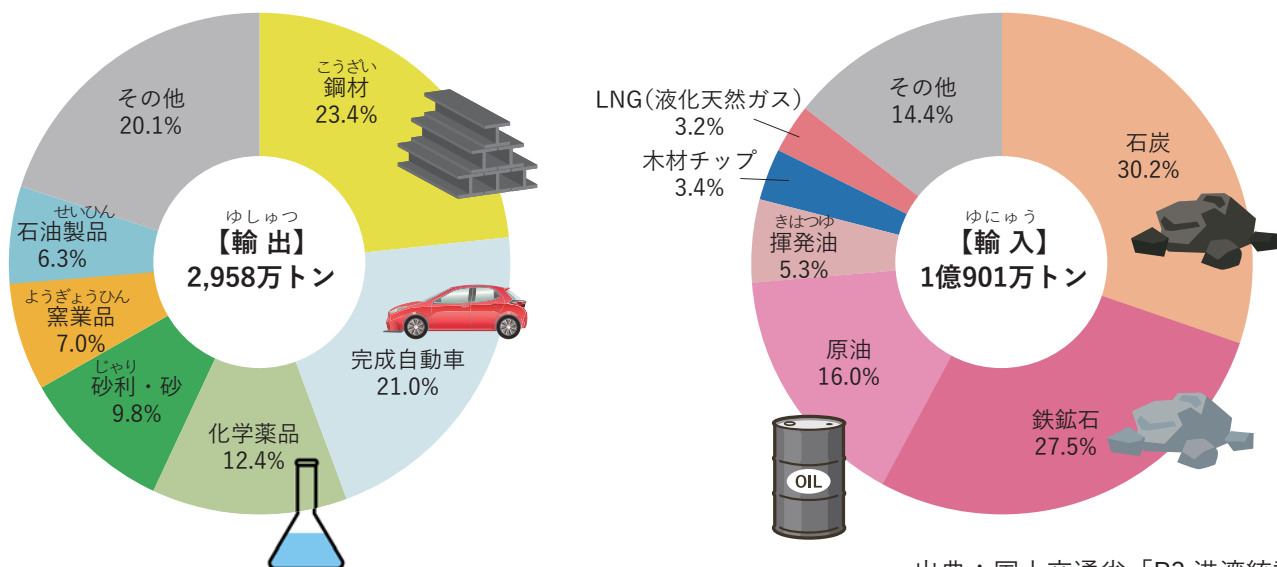
日本のエネルギー自給率 **11.2%**
資源エネルギー庁「エネルギー白書2022年」より

日本の食料自給率 **38%**
農林水産省「日本の食料自給率」より



船 **99.5%** 飛行機 **0.5%**
日本海事広報協会「SHIPPING NOW 2022-2023」より

中国地方でとりあつかっている外国ぼうえきの貨物量

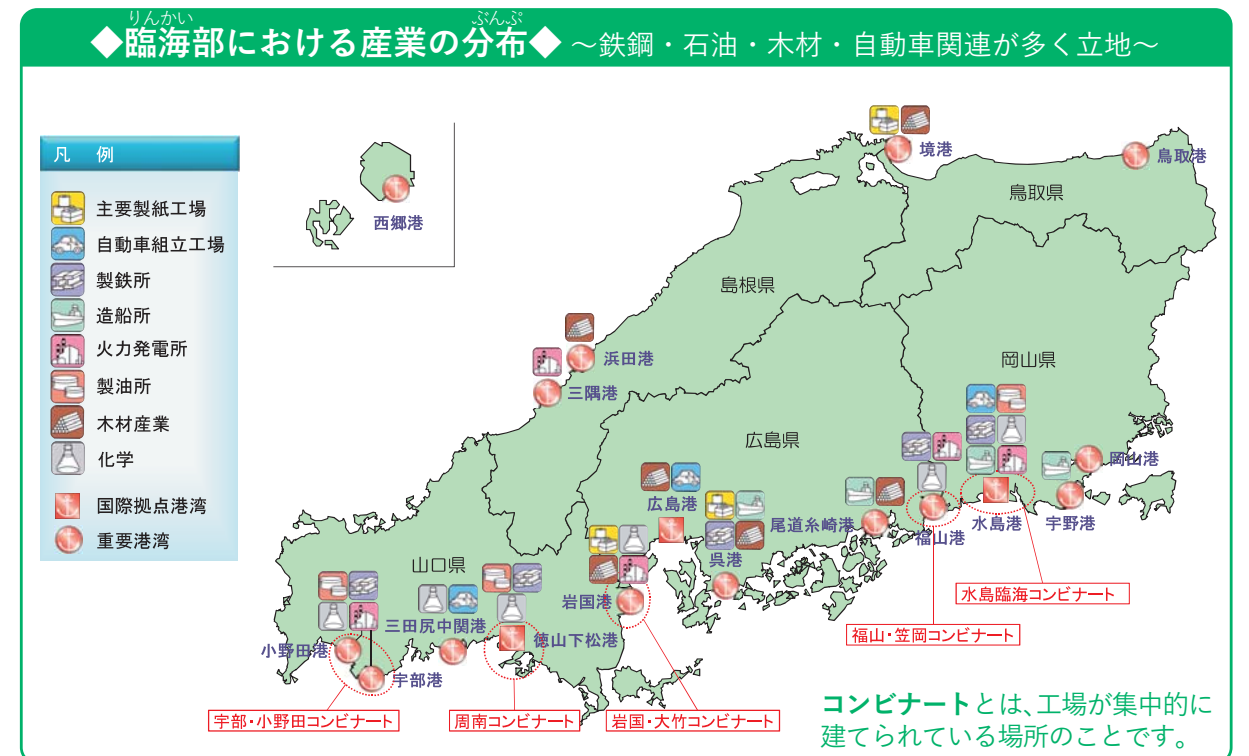


出典：国土交通省「R3 港湾統計」

中国地方の産業ぶんぶ

中国地方の瀬戸内海を中心とする臨海工業地帯の港は、原材料を輸入・加工し、石油化学製品や鉄鋼製品、自動車などを国内外に出荷するなど、工業港として発展してきました。また、海外からのコンテナ貨物を取り扱う商業港としても発展しています。

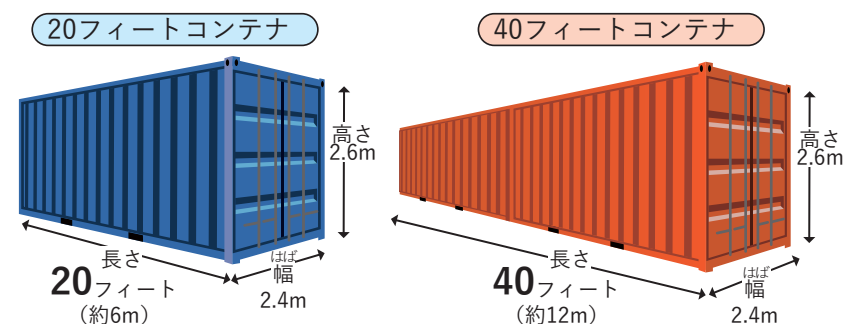
一方、日本海側の港は、砂・砂利・木材など建設に必要な材料や、石油などエネルギーを送り出す中心地としての役割があり、地域経済を支えています。



現在のグローバル社会(世界規模でお互いに影響を与えあう社会のこと)における国際物流の勢いをさらに進めているのが、コンテナという決まったサイズの箱を輸送に使用する「コンテナ物流」で、中国地方の各港でも取り扱う量が近年増加しています。

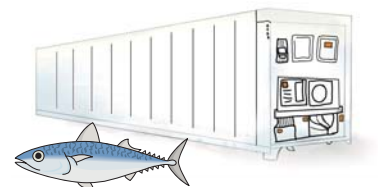
コンテナの大きさは世界共通

コンテナの大きさは世界共通で、20フィート(約6m)、40フィート(約12m)が標準的です。フィートとは、主にアメリカやイギリスなどで使われている長さの単位です。船にどれくらいの数のコンテナを積んでいるかを表すには、TEUという単位を使い、20フィートコンテナを「1TEU」、40フィートコンテナを「2TEU」と数えます。(TEU: Twenty-foot Equivalent Units)



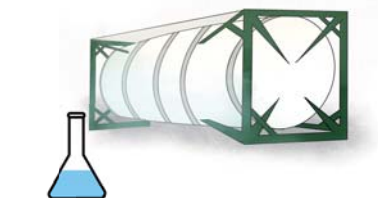
リーファーコンテナ

電気でコンテナ内の温度を下げるができます。



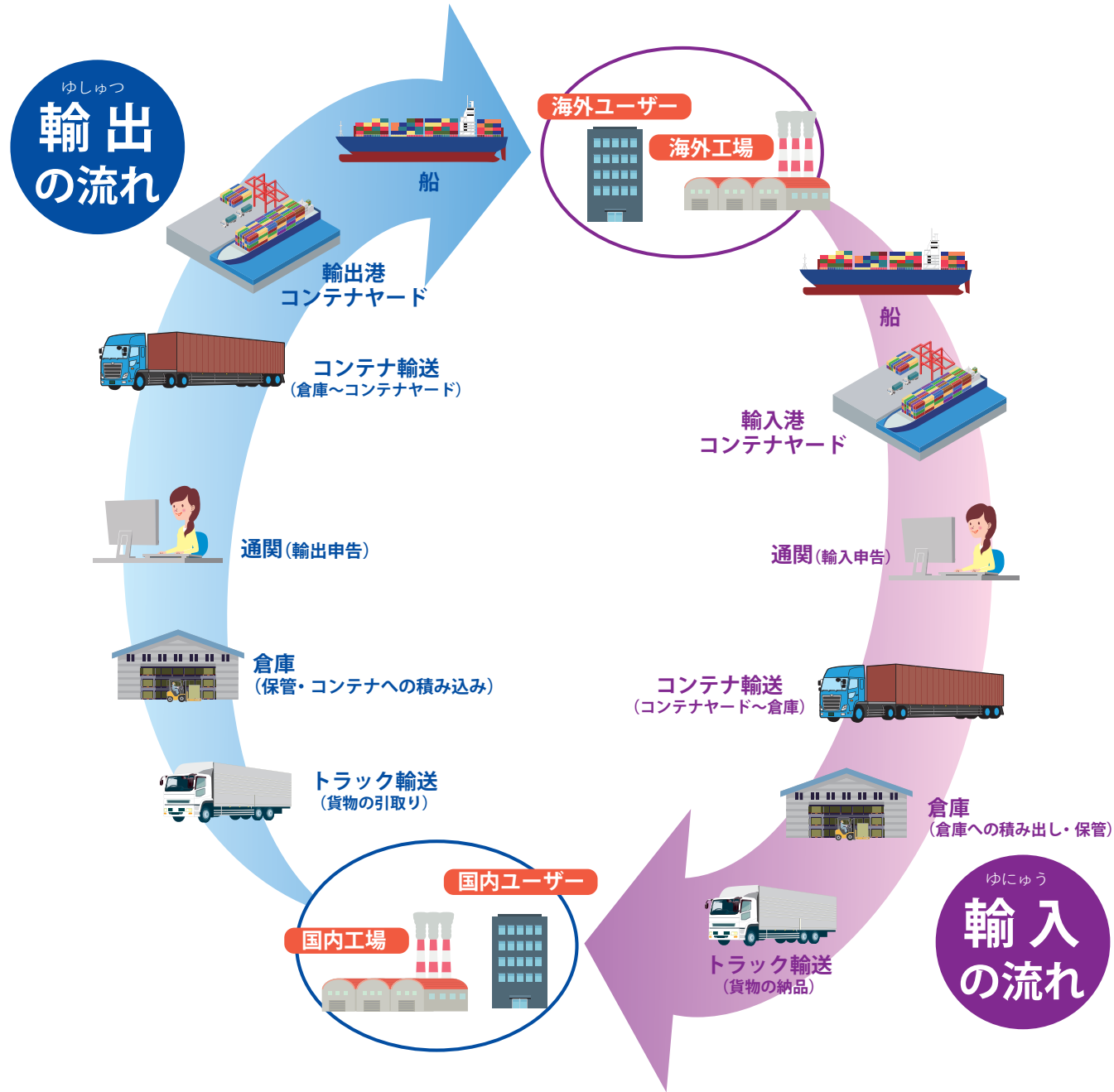
タンクコンテナ

化学薬品など液体を運びます。



こくさいコンテナ物流の流れ

毎日、多くの商品が外国から海をわたって輸入されています。また、輸入だけでなく日本で作られた商品も外国に輸出されています。
国際コンテナ物流は、商品を作る会社や、トラック、倉庫、コンテナヤード、船など多くの仕事に関わり、「連携プレー」で成り立っています。



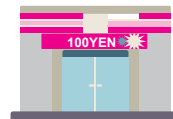
輸出の流れ

日本でつくられた商品が外国のお店に運ばれるまでの間、部品を輸出して、海外の工場では商品に加工する場合があります。



輸入の流れ

外国でつくられた商品がお店に並ぶまでの間、原料や部品を輸入して、国内の工場では商品に加工する場合があります。



こくさいコンテナ物流の仕事

かいうん業



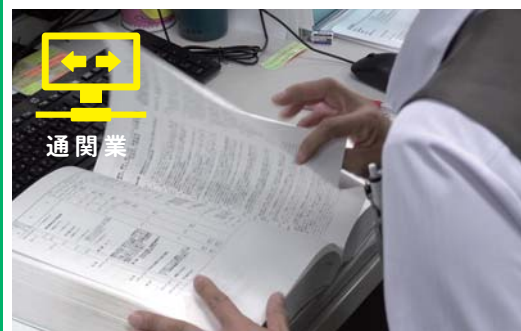
船を利用し、海上コンテナなどの貨物を出発港から到着港まで海上輸送しています。
海上輸送の船は、航路によって、内航船と外航船の2つに分けられます。
内航船は、日本国内の港から港へ貨物を運び、外航船は日本と外国の港の間で貨物を運んでいます。

こううん業



主にコンテナターミナル内で、コンテナ船からコンテナを積み下ろす作業を行っています。
船の入港・出港までの作業が効率的に行えるよう、ガントリークレーンなど様々な機械・設備を利用しています。

つうかん業



主にオフィス内で輸出・輸入に関する事務を行っています。日本は、様々な国と輸出・輸入を行っているため、国ごとに、守らないといけないルールがあります。ルールを守って、正しく輸出・輸入が行われるよう、貨物に関する書類チェックや必要となる手続きを行っています。

そうご業



倉庫内で商品の保管や管理、コンテナへの貨物の積み込み、倉庫への積み出しを行っています。倉庫は、取り扱う物に合わせて常温・定温・冷蔵などに分かれています。
また、倉庫内では、保管に加え、商品の荷作りや様々な加工が行われることもあります。

トラック業



コンテナターミナルの内外で、各種倉庫から工場やお店などへ陸上輸送を行っています。
トラックとは貨物輸送車のことですが、街中でよく見かける大型10t、中型4tや、小型2tなどに加え、国際物流の仕事では主に、コンテナをけん引するトレーラーという車両を利用しています。



海運の仕事は、船でコンテナや様々な種類の貨物を運ぶことです。船長をはじめ、主に甲板部(航海士)、機関部(機関士)に分かれて仕事をしており、全員で協力しながら船を動かして積み荷を目的地まで運んでいます。



操舵室

操舵室では、航海士がレーダーや海図などの情報のほか、目視での周辺確認や、船長の判断を聞きながら船を動かしています。また、個室になっており、休みの時間にはそれぞれ自由に過ごすことができます。



機関室には、船のエンジンや船内用の発電設備が備わっており、機械設備の操作やメンテナンスを行っています。船が一度海に出ると海の上ですごす時間も長くなるため、船内にはダイニングルームやキッチンが用意されており、自分で食事を作ることもあります。



ガントリークレーン

港運の仕事は、主にコンテナターミナル内で様々な機械・設備を利用しながら、船から陸へ、陸から船へコンテナを積み下ろしたり、コンテナヤードで整理・保管を行ったりすることです。「ガントリークレーン」と呼ばれるこの機械は、コンテナ貨物などの積み下ろしに利用するためにコンテナ船が着く港に設置されており、世界中の港で活躍しています。



コンテナターミナル内を自由自在に走っているのは、ストラドルキャリアと呼ばれる機械で、コンテナターミナル内でコンテナを整理整頓しています。どの荷物をどこに置けばいいのかわかるタブレットからの指示を見ながら作業を行っています。



ストラドルキャリア





通関の仕事は、輸出や輸入に伴う各種手続きや確認等を行っており、国際物流では欠かせない仕事です。輸出入する貨物は、国や地域ごとに手続きや関税(関税とは輸入品に対する税金のこと)が異なるので、輸出入する品目ごとに書類をチェックして、各種申請が正しく行われているかの確認や、必要な手続きなどを行っています。

ゆしゆつにゆう 輸出入貨物の申告
各種規制のチェック及び
ぜいりつ かくにん 税率の確認等

かんぜい しんこくのうふ 関税の申告納付
しんこく しんさ 申告書類の審査を行います。

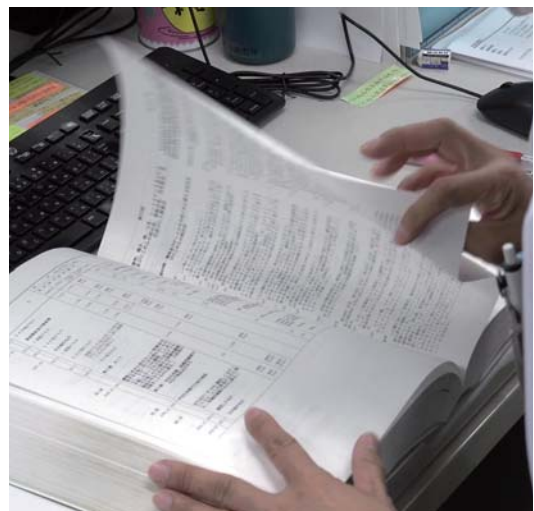
X線検査の立ち合いの様子



コンテナの中身をすべて出し
かくにん 確認する場合があります

倉庫の仕事は、商品の保管・管理や、コンテナへの貨物の積み込み、倉庫への積み出しです。低温倉庫では、-23℃、5℃、10℃の温度帯を取り扱っており、外国から温度を管理されて運ばれてきた商品は、この低温倉庫に運ばれて仕分け・保管され、各メーカーへ出荷しています。

倉庫内では、農業や鉱業、製造業など幅広い産業の貨物が整然と保管され、貨物が運び込まれるたびに商品の確認作業を行っています。



しんせい 申請された書類に書かれている貨物の中身と、タリフ(関税率が品物ごとに整理された表)を見比べ、正しく申請されているかどうかをチェックするためにも、幅広い知識や経験が必要とされる専門的な職業です。通関の仕事の現場では数多くの女性が活躍しています。オフィスでの作業が多いですが、ときには検査に立ち合うこともあります。



低温倉庫内では、素早く商品をコンテナから積み出し、すぐに機械化された立体自動倉庫内への保管を行っています。



立体自動倉庫



トラックの仕事は、主にトレーラーと呼ばれる車で、コンテナを輸送することです。コンテナターミナル内でガントリークレーンからコンテナを受け取り、コンテナターミナル外の倉庫や工場へ運搬しています。



コンテナターミナルから、一般道や高速道を使って工場や商店に荷物を運んでいます。



大きな乗り物なので、一般道を走っていると子どもたちが手を振ってくれることもあります。コンテナをけん引するこの仕事は力仕事がありません。最近では女性ドライバーも増えてきています。



国際物流では、航空機や鉄道を利用した商品の輸送も行われています。航空輸送は、大きくて重い荷物の輸送には向いていませんが、肉・魚など鮮度が重要な食品や、半導体部品などスピードが求められる貨物輸送に主に利用されています。鉄道輸送は、道路渋滞の解消にもつながるため、船舶と同じように環境への負荷が少ない輸送手段として近年注目を集めています。線路のある国内輸送だけでなく、博多港・下関港などから船に積み替えられる国際輸送も行っています。



12フィート(5トン) コンテナ
 鉄道では12フィートコンテナがよく使われます。
 高さ2.5m、幅約2.5m、長さ約3.7m